

浜嶋です。

おはようございます。

隊リーダーへ

保護者へ

団委員へ

今日は、久しぶりにV S 隊のリーダー会議に出席します。入院などで参加できなかったためです。私は、参加するときにベンチャー隊隊長ハンドブックを持っていきます。その理由は、こんなことです。

2年半前にV S 課程のウッドバッジ研修所を修了しました。これは団委員長としてV S 隊の高橋隊長を支援することと団委員長としてベンチャー隊の知識を得たいと考えたからです。実際、研修所を修了したからと言って何でも分かっているわけではありません。活動を始めるといくつかの疑問が湧きます。隊会議とは何か、それはスカウトによってどのように運営され、隊リーダーはそれにどのように関わればいいのか。自分自身の関わり方をしっかり理解しておかなければ、他のリーダーに迷惑をかけます。疑問が湧いたときにすぐに調べられるようにハンドブックが必要なのです。そして、他のリーダーとハンドブックを見ながら確認するためです。

隊長経験者は、ハンドブックの重要性を十分分かっていると思います。分からないことはすべてハンドブックを見て調べる。ハンドブックに示されたやり方は、1つの事例と考えてもいいですが、日本中の指導者の共通の手本です。ハンドブックに書かれたことと違うことをしては、他の団の指導者に対して恥ずかしいことです。

ハンドブックに書かれていることができない状況になっている隊は、しかたがありません。スカウトの人数が足りない。指導者の人数が足りない。団の支援も難しいとなれば、スカウトが活動しやすいようにしてあげてを考えます。基本を維持しながら、他の団のスカウトと交流しても、自分の隊を誇りに感じてもらう最低限の環境づくりや共通の考え方を教えます。

実際は、試行錯誤です。しかし、ハンドブックに始まり、いつまでもハンドブックを頼りに確認をすることが重要です。それぞれの隊長を見れば、個性があってそれぞれが違って見えます。でも、隊長に相談してみてください。皆さん同じことを言います。それが、日本連盟のウッドバッジ研修所の素晴らしさです。研修所で感動し、自分もスカウトにボーイスカウトの素晴らしさを教えたい。そのためには、隊に戻ったらこれをやってみようと思うわけです。たとえば、開会儀礼の隊長の挨拶は鮮烈に頭に残っています。短い言葉で、私たちに隊集会をやる気にさせてくれました。これが私の見本です。また、私は、B

S課程を修了した後で、「班旗立て」が気に入り、スカウトにとって面白いゲームになると確信しました。そして、どこでもやり始めました。4段で班旗立てもやりました。一人でも立ててみました。

隊長は、日ごろのリーダー会議で模範を示してほしいと思います。BVS隊のリーダー会議では、机の横にハンドブックを置いていますね。副長さんは、この話をどう思われますか。保護者の方にも「隊活動は、ハンドブックが基本」ということを覚えてほしいですね。隊長は勝手なことをしているわけではありません。ハンドブックの教えを展開しているのです。いつかはハンドブックのお世話になるかもしれませんよ。